

様式第3号(第12条関係)

会 議 録

会 議 の 名 称	平成26年度第1回吉川市水道運営委員会
開 催 日 時	平成26年8月18日（月）午後1時30分から午後2時45分まで
開 催 場 所	水道課別棟会議室
出席委員(者)氏名	立澤利夫会長、森田京子副会長、沖 敬子委員、飯箸幸弘委員 斉藤幸男委員、飯塚貴利委員、高野 昇委員
欠席委員(者)氏名	酒井正光委員、
担当課職員職氏名	水道課長 山崎 成一 課長補佐兼施設係長 戸丸 恵三 課長補佐兼庶務係長 石田 和親 施設係主査 岡田 卓也 庶務係主査 岡田 一直 庶務係主任 濱田 智恵 庶務係主事 山崎 徹 庶務係技師 村上 飛鳥
会議次第と会議の公開又は非公開の別	1 開 会 2 市長あいさつ 3 会長あいさつ 4 事務局職員紹介 5 議事 (1) 平成25年度吉川市水道事業会計決算について (2) 平成26年度吉川市水道事業会計予算（第1号）（案）について (3) その他 6 閉会 以上、すべて公開
非公開の理由 (会議を非公開にした場合)	なし
傍 聴 者 の 数	0名
会 議 資 料 の 名 称	1 平成25年度吉川市水道事業会計決算書 2 平成25年度吉川市水道事業会計決算概要について 3 平成26年度吉川市水道事業会計補正予算（第1号） 4 平成26年度吉川市水道事業会計補正予算（第1号）（案）概要

会議録の作成方法	<input type="checkbox"/> 録音機器を使用した全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 録音機器を使用した要点記録 <input type="checkbox"/> 要点記録
会議録確認指定者	飯塚貴利委員 高野 昇委員
その他の必要事項	

審議内容(発言者、発言内容、審議経過、決定事項等)	
事務局	1 開会のことば
戸張市長	2 市長あいさつ
立澤会長	3 会長あいさつ
事務局	委員出席状況を報告 委員8名中7名が出席であることを報告 会議成立を報告 会議が公開であることを報告 傍聴者がいないことを報告 会議資料の確認 議事進行を立澤会長に依頼
立澤会長	会議録の署名委員に、飯塚委員と高野委員の2名を指名
	4 事務局職員紹介
	5 議事
	(1) 平成25年度吉川市水道事業会計決算について
事務局	平成25年度吉川市水道事業会計決算について説明
立澤会長	それではただいまの説明につきまして、質問等がある方はいらっしゃいますか。
高野委員	① 給水戸数、給水人口ともに増えているにもかかわらず、前年度に比べて給水人口1人1日平均給水量が3リットルほど減少しているとのことだが、その要因と今後についてどう考えているか。 ② 逆ざやが続いているが、今後についてどう見込んでいるか。
事務局	① 要因としては節水型家電製品の普及が考えられます。 また、給水戸数が給水人口よりも伸びていますが、その反面、一戸当たりの人口は少なく、単身世帯が増えていることなどから、給水人口1人1日平均給水量が減少していること影響していると考えています。 なお、節水型家電製品普及による影響については、ある程度は落ち着くものと考えております。

② 逆ざやが大きな要因の一つに給水原価が高いことが挙げられます。

また、供給単価については、相対的な売り上げが落ちているにもかかわらず有収水量が高くなっていることから、どうしても供給単価が下がる状況にあります。

このため、給水原価が上がり、供給単価が下がるという二重の影響を受けております。

今後におきましても、当面の間、設備投資に伴い減価償却費が発生しますので、給水原価が上がる状況は続くものと考えております。

さらには、吉川中央土地区画整理事業、UR都市機構、鉄道運輸機構の開発に伴い、水道管を受贈財産として受け取っておりますので、これらの減価償却費分も給水原価に影響を及ぼしますが、減価償却が終わる施設などもあるため、逆ざやが必ずしも右肩上がりにはならないものと考えております。

森田副会長

- ① 逆ざやについて説明願いたい。
- ② 逆ざやの増加要因について説明願いたい。
- ③ 逆ざやと今後の水道料金について説明願いたい。
- ④ 近隣事業体との水道料金の比較状況について説明願いたい。

事務局

① 逆ざやは、水道水1 m³当たりの供給単価を給水原価が上回ることをいいますが、現在、吉川市では人口が増加しているものの、1人1日平均給水量の減少などにより、売り上げが伸び悩んでおります。

一例としまして有収水量が変わらずに売り上げが落ちる状況などになることで、逆ざやが発生いたします。

また、全体の水道料金が伸び悩む要因についてですが、水道料金は、使用した水量に関わりなく負担する基本料金と、使用した水量に従って負担される従量料金の二部料金制を取っておりますが、従量料金の単価は、使用量の増加に応じて1 m³当たりの単価が高くなるため、使用水量が減少いたしますと従量料金の単価が下がりますことから、一戸当たりの使用量が減ることにより、全体の水道料金が伸び悩んでおります。

② 次に、先程説明させていただきましたとおり、平成25年度は27円という大幅な逆ざやが発生しておりますが、その増加要因につきましては、旧管理棟と電気室の解体に伴い残存価格を1年で減価償却する必要があったため、7円程の資産減耗費があったことが挙げられます。

なお、この条件を除きますと大幅な逆ざやにはならないものと考えます。

③ 次に、逆ざやによる水道料金への影響についてですが、水道事業会計の水道料金に関わる収支は、料金収入などの収益と、水道水を製造するための費用の支出から構成されております。水道料金のみの収益では逆

ざやですので赤字ということになりますが、収益は水道料金のほかに下水道料金徴収の受託事務費や加入者分担金も収益に含まれますので、当面は今後も経常利益の黒字を見込んでおります。現段階では逆ざやによる水道料金の値上げは想定してございませんが、耐震化などの設備投資や埼玉県企業局から購入している県水の値上げや、人口増加にも関わらず料金収入が伸び悩むなどの経営状況になった場合には、料金改定が必要になる場合がございます。

なお、この件に関しましては、6月議会において市長からも答弁をしております。

いずれにしましても、吉川市の水道事業におきましては、収支が黒字であれば

逆ざやが続いたとしても、基本的に影響ございません。

④ 次に、近隣事業体との水道料金の比較状況についてですが、それぞれの事業体において基本料金や従量料金の考え方が違いますので一概に比較することは難しいですが、吉川市の一般家庭の一月当たりの平均使用量であります20m³で比較いたしますと、吉川市の2,250円に対して三郷市が若干安く、1,950円となっておりますが、他につきましてはほぼ同額、若しくは若干高い状況となっております。

また、水道料金体系についてでございますが、先程も触れさせていただきましており、事業体によって若干異なっておりますので、ここでは3点に分けて説明させていただきます。

はじめに基本料金についてですが、基本料金はメーター器の大きさで基本料金の単価が異なる団体もございます。吉川市におきましては、基本料金は10m³までとなっておりますが、8m³までとする事業体もございます。

次に、料金単価についてですが、メーター器の大きさによっても料金単価が違う事業体がございます。吉川市では一般的に20mmですが、口径に関わらず料金単価を統一しております。

次に従量料金についてですが、これは家庭用電気料金と同じように使用量が多くなりますと1m³当たりの単価が高くなります。

立澤会長

はい、ありがとうございました。

森田副会長

どうもありがとうございました。近隣事業体と比べた吉川市の水道料金の現状や、今後の動向についても丁寧にお知らせいただきまして、どうもありがとうございました。

審議内容(発言者、発言内容、審議経過、決定事項等)

事務局

それから、今まで3条にありました加入者分担金を平成26年度予算から全て4条の方へ移行させたため、3条予算の収入が減ってしまい、赤字になってしまうのではないかという疑問もあると思いますが、これにつきましては昨年度もご説明させていただきましたとおり、制度改正に伴い、資産の一部を収益化しまして、今年度は約2億4千8百万円ほどを3条予算に入れますことから若干の余裕がございますので、すぐに赤字となり、水道料金の値上げとなることは当面想定されません。

森田副会長

ご丁寧にありがとうございます。

立澤会長

はい、ありがとうございました。
それでは、他に何かございますか。

高野委員

吉川市の水道事業について説明をいただきましたが、新聞報道によりますと、全国では秩父市や水戸市のように値上げせざるを得ない事業体もあるようです。

そのようななか、吉川市の拡張計画は1期から5期までとなっていますが、今後、水道料金に大きく影響するような事業は予定されているのか伺いたい。

事務局

5期で見込んだ1人1日平均給水量は、現状と比べてもかなり多かったため、当面は人口が増えても拡張せずに補えるものと考えております。

また、秩父市においては設備投資などに伴うものではなく、あくまでも料金収入自体が補えない状況とのことでございます。

なお、先程も制度改正に伴う主な変更点について説明させていただきましたが、吉川市は、みなし償却をすることなく、全てを償却してきたことから、資産の一部を収益化して3条予算に入れることができっておりますが、苦しい事業体によっては、同様の手法が取れないなか、人口も減少し、料金収入も落ちるなど、二重三重の厳しい状況があるものと考えられます。

次に、今後の事業展開についてでございますが、石綿管の布設替えにつきましては、これまでどおり順次行ってまいります。施設につきましては今年度、会野谷浄水場の配水池の耐震化を進めるとともに、電力途絶時に浄水場の電力を供給する自家発電機の燃料貯蔵施設の拡張も実施してまいります。

いずれにしても、急激に事業を実施すると、企業債の借り入れが増えてしまい、その結果、後年度の返済額が多額になることから経営状況を逼迫させてしまう可能性もございますので、特に3条予算の収支状況を勘案しながら、事業計画を随時見直していきたいと考えております。

立澤会長	<p>はい、ありがとうございました。 他に質問等がある方はいらっしゃいますか。 無いようですので、次の議題に移らせていただきます。</p>
事務局	<p>(2) 平成26年度吉川市水道事業会計補正予算（第1号）について</p> <p>平成26年度吉川市水道事業会計補正予算（第1号）について説明</p>
立澤会長	<p>それではただいまの説明につきまして、質問等がある方はいらっしゃいますか。 無いようですので、その他、事務局からお願いします。</p>
事務局	<p>(3) その他</p> <p>応急給水栓について説明</p>
立澤会長	<p>それではただいまの説明につきまして、質問等がある方はいらっしゃいますか。</p>
斉藤委員	<p>これは旭小学校にも置いてありますか。</p>
事務局	<p>耐震性貯水槽がある場所には配備されていると聞いております。 また、災害時に一番厳しいのは電気が供給されないことです。仮に電気の供給が止まりますと、県水の送水も止まってしまうため、どうしても南配水場の貯水量は限られますが、会野谷浄水場内には井戸とろ過設備がございますので、自家発電機を稼働して水道水を作ることができます。その水道水を配水池に溜めて、配水池周辺にあります消火栓に応急給水栓を接続すれば、水位差によって電気がなくても水が出ますので、吉川市の水道事業ではこれを活用した応急給水活動を想定しております。 以上のことから、今回、会野谷浄水場内にあります自家発電機の燃料貯蔵施設の拡張を行うものでございます。</p>
戸張市長	<p>ある程度の地震では、水道管が使用できるようにするため、順次、石綿管から耐震管に布設替えを行っていますが、万が一水道管が使用不可になった場合には、会野谷、南配水場以外に6ヶ所あります耐震性貯水槽からも給水をいたします。</p>

立澤会長	その他、事務局からは何かございますか。
事務局	窓越しではございますが、只今、会野谷浄水場内において実施しております自家発電機の燃料貯蔵施設拡張工事をご覧いただけますので、見学いただきながら、この場で工事の概要について説明させていただきます。
立澤会長	はい、ありがとうございました。 それではこれで本日の会議の進行を終了させていただきます。 委員の皆様、ご協力ありがとうございました。
事務局	閉会のあいさつを森田副会長にお願いします。
森田副会長	副会長あいさつ 以上で終了。散会。
<p>以上、会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名する。</p> <p>平成26年11月14日</p> <p>署名委員 飯塚 貴利 (自署) 署名委員 高野 昇 (自署)</p>	